

(株)FPコーポレーション



太鼓判 押します!!

小田切務務行政事務所
行政書士・社会保険労務士
小田切良司さん

同社とは法人設立以来のお付き合いで、月に数度訪問する機会がありますが、いつもオフィスから社員の笑い声が聞こえてきます。社内のコミュニケーションが良好な証拠で、活発な意見交換も多いのだと思います。私は「FPの家」ユーザーでもありますが、簡単なリフォームの相談でも親身に相談に乗ってくれるスタッフがいます。信頼関係と人への優しさが、「ひとのキラダがよるこぶ家」をつくっているのだと思います。

北の大地で快適な暮らしを追求する
FPコーポレーション



岐阜の実家は土壁だったため、「寒い思いをしたことが家づくりの原点」という前川社長

パネルをはめこむだけの
カンタン施工もウリ

「客観的評価」に挑戦

約40年前の断熱パネルに付加価値を 快適な暮らしのイメージを具現化

木枠内に硬質ウレタンフォームを注入し、一体成型した高断熱・高気密な断熱材「FPウレタン断熱パネル」は、1985年に北海道の建設会社が開発して以来、全国の住宅施工現場で採用されている建築資材だ。(株)FPコーポレーションは2009年からその会社の事業を引き継ぎ、断熱パネルにあらたな付加価値をつけようと、奮闘している。

そもそも、断熱材の役割は壁や天井、床の内部に用い、家全体の温度を一定に保つというもの。なかでもFPウレタン断熱パネルは使用される硬質ウレタンは水や湿気に強く、壁内の経年劣化を長く抑えるという。北海道の冬季に発生する室内外の激しい寒暖差は結露を生み、壁内を腐食させるが、このFPウレタン断熱パネルなら万全というわけだ。しかも、工場パネルを一貫生産するため、現場では壁にはめこむだけと手

軽、さらに断熱性能が現場の技術に左右されないというメリットもあり、37年にわたるロングセラー商品になっているのだ。しかし、同社がこの事業を引き継いだ当初は「販売方法がマンネリ化してしまっていた」と前川康雄社長(65歳)は振り返る。そして住宅業界も法律の見直しとともに、日々変化が求められるなか、「切り口を変え、エンドユーザー向けのあらたな可能性を見出していかなければならない」と強く思うようになったそう。そこで、同社が挑戦したのが各種コンテストに応募して「客観的な評価を増やす」とだった。もっとも、約40年前に開発された製品に付加価値をつけることはカンタンなことではなかったが、前川社長はあらためてFPウレタン断熱パネルの性能を洗い出し、その頑丈さに着目。東日本大震災の津波で残った住宅が同社のパネルを使っていたこと、



高断熱・高気密が特徴のFPウレタン断熱パネル

北海道札幌市東区北42条15-1-1栄町ビル
☎011-751-5339
設立 2009年
従業員 150名
資本金 4億円
www.fpcorp.co.jp